

教科・科目	理科・生物基礎	単位数	2単位	学年・学級	2年必修
使用教科書	新編生物基礎（東京書籍）		副教材	ニューステップアップ生物基礎新課程（東京書籍）	

学校教育目標		郷土を愛し たくましく生きよう 自ら学ぶ意欲を 持ち続けよう						
育成を目指す資質・能力	傾聴力		協働力	○	議論する力	◎		
	自省力		理解力	◎	批判力	○		
	自己実現力		表現力	◎	情報活用力	○		
学習の到達目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに対する基本的な技能を身に付ける。 (2)目的を明確にして観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究する態度と、生命を尊重し自然環境の保全に寄与する態度を養う。							
評価の観点	① 知識・技能		② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度			
A 活用できる	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての発展的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を的確に身に付けている。		生物や生物現象から問題を見いだし、解決のための仮説を設定し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を的確に分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもって振り返りなど、科学的に探究しようとし、科学的な見方・考え方を応用しようとしている。			
B わかる・できる	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。		生物や生物現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもって振り返りなど、科学的に探究しようとしている。			
C 努力を要する	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けることに努力を要する。		生物や生物現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究することに努力を要する。		生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもって振り返りなど、科学的に探究することに努力を要する。			
具体的な改善方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業毎の課題での得点UPやWSの適切な記述 各小テスト得点UP 考查の知識・理解分野の得点UP 基本問題の演習 		<ul style="list-style-type: none"> 授業WSや実験WSの正確・的確な記述 考查の思考・判断・表現分野の得点UP 考察問題の演習 		<ul style="list-style-type: none"> 授業において、主体的な課題への取り組みやWSへの適切な記述 長期休業課題への取り組み 			
評価基準 (各10段階)	A	10	～	8	A	10	～	8
	B	7	～	3	B	7	～	3
	C	2	～	1	C	2	～	1
	評価の方法		評価の方法		評価の方法			
	<ul style="list-style-type: none"> 授業ごとの課題 (WS) 実験WS 小テスト 定期考査 		<ul style="list-style-type: none"> 授業ごとの課題 (WS) 実験WS 小テスト パフォーマンステスト (PT) 定期考査 		<ul style="list-style-type: none"> 授業ごとの課題 (WS) 授業毎の振り返り 単元毎の振り返り 			

【学習計画】

月	単元	学習の目標	評価の観点			評価の方法	自己評価	実際評価
			①	②	③			
4	ガイダンス①	1年間の学習内容、シラバスの活用方法について理解する。 ※前期の目標						
	ガイダンス②	・レポートの書き方について学習し、結果や考察を表現することができる。			○	WS・レポート		
5	1編 生物の特徴	・生物、細菌、ウイルスの比較から、生物の定義や生物が多様性と共通性を持つことを理解し、細胞の特徴や構造についての知識を身につけ、レポートに表現できる。	○	○		WS・レポート		
	1章 生物の多様性と共通性	・顕微鏡を正確に操作し、観察物を的確にスケッチすることができる。	○	○	○	実験レポート スケッチ		
	2章 生物とエネルギー	・酵素のはたらきと、ATPの構造と体内ではたらきについて理解し、実験の仮説を立てることができる。	○		○	WS 実験レポート		
6	【前期中間考査】	※振り返り	○	○		定期考査		
		・生命活動に必要なエネルギーと代謝について、光合成と呼吸を中心として理解し、説明することができる。	○	○				
		・葉緑体とミトコンドリアの起源と共生説について理解し、説明することができる。	○	○				

7	2編 遺伝子とそのはたらき	・遺伝情報を担う物質としてのDNAについて構造や特徴を理解し、知識を身に付けている。	○	WS		
	1章 遺伝情報とDNA	・実験器具を適切に用いて実験の目的を達成できる。 ・DNAが複製され、分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解し、複製方法や細胞周期についての知識を身に付けている。	○ ○	実験レポート WS		
8	2章 遺伝情報とタンパク質の合成	・DNAの情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解し、セントラルドグマを説明することができる。 ・思考実験により、遺伝暗号表の作成の過程を考察することができる。	○ ○	WS 実験レポート WS		
	【前期期末考査】	※振り返り	○ ○	定期考査		
		※後期の目標				
9	3編 ヒトの体の調節	・実験によって体内環境が恒常性によって保たれていることを理解し、具体的な事例を説明することができる。	○ ○	WS 実験レポート		
10	1章 ヒトの体を調節するしくみ	・体内環境の維持に自律神経とホルモンが関わっていることを理解し、まとめることができる。 ・血糖や体温調節について、自律神経とホルモンの複合的な関わりを理解し、説明することができる。	○ ○ ○	WS・小テスト WS・PT		
11	2章 免疫のはたらき	・免疫とそれに関わる細胞の働きについて理解し、まとめることができる。 ・免疫の応用と疾患について身のまわりの生物現象と結びつけて考察することができる。	○ ○	WS WS		
	【後期中間考査】	※振り返り	○ ○	定期考査		
12	4編 生物の多様性と生態系	・陸上には様々な植生がみられ、植生は長期的に移り変わっていくことを理解し、地域の具体的な事例について考察することができる。	○ ○	WS・小テスト		
1	1章 植生と遷移	・気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成立していることを理解し、知識を身に付けている。	○ ○	WS		
2	2章 生態系と生物の多様	・生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解し、説明することができる。 ・生態系のバランスについて理解し、生態系の保全の重要性について議論することができる。	○ ○ ○	WS WS		
	【学年末考査】	※振り返り	○ ○	定期考査		
3		・調査結果から身の回りの生物とそれらを取りまく生態系についてまとめ、科学的な見地のもと保全や取組について考察することができる。	○ ○ ○	WS・レポート		

☞最終評価（自己評価／実際評価）

① 知識・理解	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度